

鈴鹿市立栄小学校 令和2年度学校関係者評価書

評価項目	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで以上に学習習慣の定着, 学習内容の充実と学習時間の確保, 学ぶ姿勢の育成, 家庭学習の充実でドリルによる基礎基本の学力を身に付けていくことが必要である。 ・いろいろなことを工夫しながら授業を進めている。この取組の継続が必ず後につながる。 ・1年児童は作文や考察することを楽しいと思っている。 ・PCやタブレットの導入, 英語, プログラミングは重要である。 ・国語研究発表の時, 自分の意見を述べることはかなりできるようになってきたと思うが, 人の意見を理解し, さらに自分はどう思うと分析する力を高めることが重要である。 ・普段の図書の貸し出し本について, 保護者の協力が必要である。 ・問題をしっかり読み解く力をつけることが大切である。 ・落ち着いて授業に参加できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握し, 児童の実態に沿った学習活動を目指し, 指導力向上等の研修を積み重ねていく。 ・落ち着いた学習環境を保障するため, 学習規律を徹底する。 ・学習規律について定期的に意見交換し, 共通理解を図る。
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えるということをゲームの中に組み込むなど, 自然とそのようなことをするようになる仕組みなど, 先生方の取組の工夫を感じた。 ・児童アンケートでよい結果が出ているのも, 先生方の取組の成果である。 ・コロナにかかった生徒, 職員, 親への偏見や差別をなくす取組は重要である。 ・コロナ禍でできていない課題に対し, 次年度は取り組んでほしい。 ・人権フォーラムに6年生全員が参加できたことはよかった。継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた仲間づくりの取り組みを継続して行う。 ・意図的に, 子どもたちが協力したり, 共感し合ったりすることができる場づくりを行い, 個々の児童が認められていると感じる体験を積み重ねる。 ・新型コロナウイルスに関わる差別を生まないための学習を継続する。 ・出会い学習を今後の状況に応じて進めていく。 ・学年に応じて, SNSなどのネットモラル, 情報モラルについて, 学習する機会を設け, 保護者への啓発を行う。 ・人権フォーラムに向けての取組を継続する。
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート, 保護者アンケートから基本的な生活習慣が去年度と比べ改善されている。 ・子どもたちがおかしなことをしていたり, 間違った行動を取った時は, その都度, それは間違っていることを伝えてほしい。 ・車通りの多いところなど, 登下校の見守り強化が必要である。 ・あいさつ, 言葉づかいの指導, 人に対する優しく思いやりをもてる指導をしてほしい。 ・あいさつは, いかに大人が子どもに声をかけてやるかだと思う。 ・先に声をかけるほうが気持ちいいと学習させることができると思う。 ・いじめは小さいうちにどんどん潰すべきである。 ・児童の中にいじめ防止に取り組むことのできるリーダーがいるとよい。 ・あいさつする子が増えつつある。 ・通学団での登校では6年生ががんばっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや言葉づかい等に対して継続的に指導していく。 ・教師間で指導内容についての共通認識をもち, 連携して指導していく。 ・いじめ防止・早期発見に対して学校全体で取り組んでいく。 ・安全安心な学校づくりに努める。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の児童も, 通常学級との関わる機会をぜひ作ってほしい。 ・特別支援にかかる児童を通じて, 思いやりを持って相手を理解していくかを学ぶ機会になると思う。 ・子どもたちに心の教育をするため必要な課題である。 ・障がい者理解の推進のため, 交流ができるとよい。 ・支援が必要な児童について分析することも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力学級で過ごす時間が多く, 特別支援学級の児童のことを理解してくれる児童も多い。 ・校内で障がい者理解がどれだけ進んだかを確認する必要がある。 ・交流する機会の充実を行う。 ・児童が増えており, 限られた職員数の中で, どのような体制を組んで支援を行っていくかを考える必要がある。
地域ぐるみの教育	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの方が支援してくださることに本当に感謝している。おたよりなどでもっと活躍を報告してほしい。 ・地域との交流を推進してほしい。 ・ボランティアの方々による目に見えない功績は大きい。 ・ホームページはなかなか閲覧しないのするようにしたい。 ・今後の地域協力者の開発のためにも, 現保護者がボランティアについて理解や共感を持ってほしい。 ・成果は出ていると思うので, 継続してほしい。 ・学校と地域が一体となった取り組みをすることで, 地域の活性化につながる。 ・ボランティアさんに対しての感謝を伝える機会を作れるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの効果的活用のため, 授業前に教師との役割分担を打ち合わせをする。 ・どの学年でどんな道具を使うとき, ボランティアの活用が有効か, 見直しをもてるよう, 年間を通してリストを作っておく。 ・ホームページを閲覧してもらえよう, 学校だよりや学年通信などで紹介する。
教職員の働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働については, 先生方の仕事の性質上, 削減することは難しいと考える。しかし, 先生方の健康のためにも, 校務内容の見直しや効率化を図り, 目標達成してほしい。 ・時間外労働及び休暇取得の目標の達成は必須である。 ・教員のストレスチェックを継続して実施する。 ・教員の心の安定は児童への教育につながる。 ・現在, 学習内容の多様化が進んでいる。教育委員会が考える問題点も多いと思う。 ・教職員の働きには感謝している。 ・児童の教育を考えて進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や取組の内容について, 昨年通りの提案をするのではなく, 軽減や中止を検討する。 ・留守番電話(17:00~7:30)を導入する。 ・スクールサポートスタッフを有効に活用する。 ・各自の目標退校時刻を見える化, 仕事の精選について計画的に進める。 ・2年算数のデジタル教科書の購入を検討する。